

3-3 松坂 村山

Kawaguchi Municipal High School

No.3 2023 7月号

library News



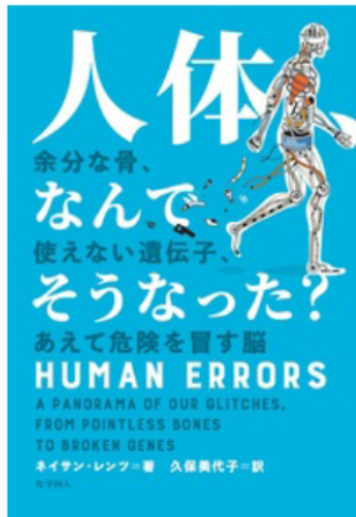
今回は図書館内に設置されたコーナーの紹介をしていきます。また、各コーナー内でおすすめの本も紹介していきます。

本校の図書館は蔵書数は60000冊以上あり、自習室が2教室計56席用意されています。図書館の様々なところに特設コーナーがあります。今回はイチオシ本、科学道100冊、ライブラリーガーデンの3コーナーを紹介します。他にも新着本コーナー、映画化した本コーナーなどもあるのでぜひ図書館に来てみてみてください。

「同志少女よ、敵を撃て」

早川書房 逢坂冬馬著
第11回アガサ・クリスティー賞大賞受賞作

独ソ戦が激化する1942年、モスクワ近郊の農村に暮らす少女セラフィマの日常は、突如として奪われた。急襲したドイツ軍によって、母親が惨殺されたのだ。自らも射殺される寸前、セラフィマは赤軍の女性兵士イリーナに救われる。イリーナが教官を務める訓練学校で一流の狙撃兵になることを決意する。



「人体、なんでそうなった」

化学同人 Nathan Lents 著
久保 美代子 訳

精巧で緻密その神秘性までが強調されることの多い「人体」。ところがその端々には不可解で残念な“欠点”が無数に見つかる。人体はゼロから精緻にデザインされたものではなく、進化によるマイナーチェンジを修正しながらなんとか作り上げられてきたものだからだ。本書では、人体が完成とは程遠いままになっている事実を明らかにするとともに、人体進化のまったく新しい見方を紹介する。

「ヘンな名前の植物」

化学同人 藤井 義晴 著
植物の名前には、きれいなもの、きたないもの、セクシーなもの、意味不明なものなど、いろんなバリエーションがあります。ヘクソカズラ、ハキダメギク、オオイヌノフグリのようにちょっと可哀想なものもあれば、コスモス、キチジョウソウ、コバンソウのように感じの良いものまでさまざまです。しかしそのように命名された植物の真の姿を探ると、ヘンな名前からは想像もできない意外な一面が浮かび上がってきます

